

令和6年度組織目標



森・里・湖に育まれる 漁業と農業が輝きます

琵琶湖システム

所属名	農政水産部
R6年度に特に注力する事項 (目標)	<p>○世界農業遺産「琵琶湖システム」の活用</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖システムInstagramフォロワー数 3,000人以上 (R3年度末150人、R4年度末950人、R5年度末2,152人) ・琵琶湖システム ロゴマーク利用累計数 250件以上 (R3年度末92件、R4年度末156件、R5年度末208件) ・びわ湖魚グルメ (外食・中食) の開発累計数 75件以上 (R5年度45件) ・琵琶湖システムが体験できる親子ツアー等の開発 3件
	<p>○「オーガニックきらみずき」の生産と流通・販売の好循環の実現</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「オーガニックきらみずき」を高価格帯で販売する首都圏等での販路を開拓 ・「オーガニックきらみずき」の生産拡大 作付面積 R6:13ha → R7:30ha
	<p>○県内一産地化に取り組む「みおしずく」の栽培面積の拡大</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場出荷面積 (市場出荷型産地の育成) R4:0.2ha、R5:1.0ha → R6:2.0ha
	<p>○近江牛のブランド力の向上と魅力発信 (“三方よしの近江牛”の推進)</p> <p>目標：</p> <p>牛を大切に育てる「牛よし」、安全・安心で高品質に育てる「人よし」、環境へ配慮して育てる「社会よし」の”三方よしの近江牛”をPRする取組への支援など、生産・流通団体等と連携してブランド力向上に取り組む。</p>
	<p>○漁業経営の安定化に向けた県内漁協の合併の推進</p> <p>目標：</p> <p>漁業経営の安定化に向け、19漁協が参加する合併 (新漁協発足) が円滑に進むよう支援するとともに、今回の合併への参加を見送った漁協に対しても二次合併実現に向けた機運醸成を図る。</p>
	<p>○農業所得の向上を実現する生産基盤整備の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の高付加価値化やスマート農業の導入が可能となる農地整備により、担い手の経営環境と所得の向上を目指す 新規着手する集落数：累計125集落 (R5:116)
	<p>○集落の力と多様な主体との連携・協働による中山間振興</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体との連携・協働により地域資源を活用した取組拡大 累計地区数：29地区 (R5:24地区) ・棚田ボランティアの年間参加延べ人数の拡大 400人 (R5:368人) ・県北部で短期滞在して農作業や地域活動等の体験を通じた関係人口の拡大 滞在した地域に再訪したい人の割合：8割以上
	<p>○CO2ネットゼロに資するバイオマス利活用の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー作物の栽培実証の開始 ・バイオガスプラントの設置に向けた支援

所属名	農政課
R6年度に特に注力する事項（目標）	<p>○世界農業遺産「琵琶湖システム」の活用</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖システムInstagramフォロワー数 3,000人以上 (R3年度末150人、R4年度末950人、R5年度末2,152人) ・琵琶湖システム ログマーク利用累計数 250件以上 (R3年度末92件、R4年度末156件、R5年度末208件) ・びわ湖魚グルメ（外食・中食）の開発累計数 75件以上 (R5年度45件) ・琵琶湖システムが体験できる親子ツアー等の開発 3件
	<p>○次期「滋賀県農業・水産業基本計画」の策定に向けた取り組み</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「計画素案」の策定 (関係団体等との意見交換13回、アンケート5,000人以上)
	<p>○CO2ネットゼロに資するバイオマス利活用の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー作物の栽培実証の開始 ・バイオガスプラントの設置に向けた支援
	<p>○【見直し・効率化】部次長スケジュールの電子化</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部次長日程の予約・調整にエントリーシートを導入し、スケジューラーにシートを添付することで、行事内容の迅速かつ正確な把握と共有を図る。

所属名	みらいの農業振興課
R6年度に特に注力する事項（目標）	<p>○「オーガニックきらみずき」の生産と流通・販売の好循環の実現</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「オーガニックきらみずき」を高価格帯で販売する首都圏等での販路を開拓 ・「オーガニックきらみずき」の生産拡大 作付面積 R6:13ha → R7:30ha
	<p>○県内一産地化に取り組む「みおしずく」の栽培面積の拡大</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場出荷面積（市場出荷型産地の育成） R4:0.2ha、R5:1.0ha → R6:2.0ha
	<p>○担い手の経営発展支援による生産力の強化</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町が策定する地域計画に含まれる集落数（令和6年度末） 1, 200集落 ・スマート農業を活用した土地利用型モデル地区での将来構想の具体化（北部振興） ・今後の集落営農組織の方向性について明確化し、関係機関で共有する
	<p>○CO₂ネットゼロに資する農地への未利用資源の活用推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業者や関係者を対象とした未利用資源農地活用マニュアルの作成（家畜ふん、もみがら、作物残渣等）
	<p>○農業技術職の人材育成</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各所属における人材育成を推進し、マネジメント力およびチーム力を向上
	<p>○【見直し・効率化】予算編成業務の簡素化</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細目事業の整理・統合等を検討する。 ・説明資料様式を統一することで、予算書作成の効率化を図る。

所属名	畜産課
	<p>○近江牛のブランド力の向上と魅力発信（"三方よしの近江牛"の推進）</p> <p>目標： 牛を大切に育てる「牛よし」、安全・安心で高品質に育てる「人よし」、環境へ配慮して育てる「社会よし」の”三方よしの近江牛”をPRする取組への支援など、生産・流通団体等と連携してブランド力向上に取り組む。</p>
	<p>○生産基盤の強化と物価高騰等に対する畜産経営の支援</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャトル・ステーションの円滑な運営と近江牛の地域内一貫生産の推進 ・飼料価格高騰に伴う緊急支援、耕畜連携等による自給飼料の安定確保に向けた取組推進 <p><数値目標></p> <p>近江牛の飼養頭数 R6：16,300頭（R4実績：15,971頭）</p>
	<p>○滋賀食肉センターのあり方見直し</p> <p>目標： 滋賀食肉センターのあり方見直しに向けた関係者との対話の推進、新たな運営スキームについての関係者等との合意形成</p>
	<p>○【見直し・効率化】協議の効率化</p> <p>目標： 協議資料は可能な限り事前配布とし、議論からのスタートに努める。メリハリのある業務遂行のため、的確な指示と助言に努める。</p>

所属名	水産課
R6年度に特に注力する事項（目標）	<p>○漁業経営の安定化に向けた県内漁協の合併の推進</p> <p>目標： 漁業経営の安定化に向け、19漁協が参加する合併（新漁協発足）が円滑に進むよう支援するとともに、今回の合併への参加を見送った漁協に対しても二次合併実現に向けた機運醸成を図る。</p>
	<p>○湖魚の消費機会拡大と集出荷体制強化に基づくブランド力の強化</p> <p>目標： 昨年度のびわ湖魚グルメ開発連携先（30店舗）等に対するセールス担当活動を展開し、消費者の湖魚利用機会の拡大および新たな流通拠点を活かした集出荷体制の強化により、琵琶湖八珍を中心とした湖魚のブランド力強化を図り、「儲かる漁業」の実現に繋げていく。</p>
	<p>○迅速な資源評価に基づく水産資源管理の高度化</p> <p>目標： 漁獲情報システム「湖レコ」による漁獲報告を全報告件数の5割に拡大し、最新の漁獲情報を活用した資源評価を迅速に行うことで、漁業者の適切な資源管理を推進する。 R5: 36%（湖レコ3066件/全報告8445件） → R6: 50%</p>
	<p>○アユ資源の回復・安定化の対策の推進</p> <p>目標： アユの漁獲と資源の状況について注視し、その回復と安定化に必要な対策を機を逃さず実施する。</p>
	<p>○【見直し・効率化】ビワマス遊漁承認制度のDX</p> <p>目標： 事務の効率化のため、遊漁者の承認申請手続きの5割を「しがネット受付サービス」を用いてオンライン化する。</p>

所属名	耕地課
R6年度に特に注力する事項（目標）	<p>○農業所得の向上を実現する生産基盤整備の推進</p> <p>目標： ・農業の高付加価値化やスマート農業の導入が可能となる農地整備により、担い手の経営環境と所得の向上を目指す 新規着手する集落数：累計125集落（R5：116）</p>
	<p>○地域農業の発展を支える農業水利施設アセットマネジメントの推進</p> <p>目標： ・効率的な農業用水の配分や、新技術導入によるエネルギー効率向上により、CO2削減にも資する施設の保全更新に着手する農用地面積 累計32,700ha（R5：29,040）</p>
	<p>○【見直し・効率化】クラウドサービスを活用した事務のDX化</p> <p>目標： ・出先機関との技術情報の共有やデータの集約にクラウドサービスを活用し、事務の効率化とデータベース化を行う</p>

所属名	農村振興課
R6年度に特に注力する事項（目標）	<p>○集落の力と多様な主体との連携・協働による中山間振興</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体との連携・協働により地域資源を活用した取組拡大 累計地区数：29地区（R5：24地区） ・棚田ボランティアの年間参加延べ人数の拡大 400人（R5：368人） ・県北部で短期滞在して農作業や地域活動等の体験を通じた関係人口の拡大 滞在した地域に再訪したい人の割合：8割以上
	<p>○世界農業遺産の活用による魚のゆりかご水田の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者や流通者、消費者が魅力発信を通じたことによる認知度向上 70%（R5：64%） ・魚のゆりかご水田米の認証地区（R7取組地区）の拡大 20地区（R6取組地区：18地区）
	<p>○農村地域における再生可能エネルギーの地産地消の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2ネットゼロヴィレッジの実現を目指して農村地域の住民が主体となり、再生可能エネルギーの地産地消を通じた地域活性化の推進 着手する地区数：2地区
	<p>○災害に強い農村地域づくりに向けた総合的な防災・減災対策の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 「滋賀県ため池中長期整備計画」に基づくため池防災工事の加速的な推進 ・防災重点農業用ため池の耐震・劣化評価の実施割合 耐震調査 83%、劣化評価 100% (R5：耐震78%、劣化78%)
	<p>○【見直し・効率化】クラウドサービスを活用した事務のDX化(※耕地課と共通)</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出先機関との技術情報の共有やデータの集約にクラウドサービスを活用し、事務の効率化とデータベース化を行う